R5年度　富屋特別支援学校鹿沼分校　学校評価シート

【教育目標】 一人一人の障害の状況等に応じたきめ細やかな教育を行い、自信と意欲を育てることにより持てる力を伸ばし、社会において自律的に生きていく基礎を培う

【評価基準】 A：達成できた（あてはまる）　B：概ね達成できた（どちらかといえばあてはまる）　C：あまり達成できていない（どちらかといえばあてはまらない）　D：達成できていない（あてはまらな

今年度の重点目標		推進担当部	達　成　目　標	具体的な取り組み	成果と課題	保護者アンケート		自己評価		評価	考　察	今後の取組
						A＋B（%）	C＋D（%）	A＋B（%）	C＋D（%）			
安全・安心な学校づくり	・児童生徒が、自ら身を守る力を育むための安全教育の充実を図る	児童生徒指導 健康安全	・児童生徒が、自分の身を守る力を高めることができるよう安全教育に取り組む。	・実態に応じて交通安全教室を実施し、地域学習等の際に実践する。 ・避難訓練では、事前に緊急地震速報の説明、ヘルメットの着脱、ダンゴムシのポーズの練習、備蓄品の確認等を行う。また事後には告知なしのショート訓練を実施する。	・交通安全教室では、実態に応じて横断歩道を渡る模擬体験を行った。繰り返し行うことで、児童生徒は自信をもって行動していた。 ・緊急地震速報時の態勢や、ヘルメットの着脱の練習を繰り返し行ったことで、児童生徒の適切な行動を身に付けることができた。	100 （81　19）	0	100 （91　9）	0	A	・どちらもA評価の割合が高く、100%の評価が得られた。常日頃の安全・防災教育の実施や訓練等の事前・事後学習の成果が、取り組みへの良い評価につながったと考えられる。	・安全教育や防災教育は継続した指導が必要である。今年度同様、鹿沼市交通安全指導員等外部講師の協力も仰ぎながら、さらに充実した指導となるよう取り組んでいく。 ・西中学校との連携を深め、合同避難訓練を計画する。
	・自らの健康管理や体力向上など予防行動の定着を図る		・児童生徒が、健康管理等の予防行動を行うことができる。	・活動の後には手洗いやうがいの励行、季節や天候による衣服の調節や汗の始末、また食後には歯磨きの指導等を行う。	・活動後の手洗いやうがい、食後の歯磨きを児童生徒の実態に応じて指導し、自主的に取り組む様子が見られるようになった。学校での取組や、児童生徒の様子について周知できるとよい。	96 （82　14）	2 （2　0）	100 （85　15）	0	A	・学校では指導の成果がみられ、児童生徒が自主的に取り組む様子も見られるようになった。どちらも高評価ではあるが、学校での取組や児童生徒の様子についての周知に引き続き取り組んでいいく必要があると考える。	・健康管理能力の育成を目指した学校での取組を、今後も継続して行う。取組や成果を保健だより等を通して保護者に周知し、家庭での実践に繋げられるよう、理解を得ていく。
	・教職員一人一人が危機管理意識を高くもち、安全な環境作り、組織的な対応をする		・各種訓練や研修を行い、緊急時の組織的な対応について理解、啓発を図るとともに危機管理意識を高める。	・避難訓練（火災、竜巻、地震）、ショート訓練（告知なし）、救急法講習会、AED研修、嘔吐物処理研修、危機管理研修、医療的ケア研修、アレルギー研修等を企画、実施する。	・各種訓練や研修等を実施し、教職員の危機管理意識を高めるとともに、緊急時における組織的な体制を整備することができた。	100 （89　11）	0	100 （88　12）	0	A	・どちらもA評価の割合が高く、100%の評価が得られた。定期的な各種訓練や研修等の実施により、教職員の危機管理意識が高めれられ、緊急時における組織的な体制作りにつながったと考えれる。	・今年度の反省や改善策を踏まえて、来年度も各種訓練や研修等を実施し、引き続き教職員の危機管理意識を高めていく。
主体的に学ぶ授業づくり	・ICT活用を含む、興味関心を生かした教材教具の工夫を行い、授業の改善に生かす	研修	・ICT活用に関する研修を定期的に実施し、各教職員が、授業や業務遂行に有効に活用することができるように取り組む。	・ICT活用研修（Formsを使ったアンケートの活用、Zoomの設定や手順について等）を実施する。 ・利用可能な教材ソフト、アプリに関する研修、タブレットや電子黒板の活用の工夫など、日々の授業改善に生かせる技能研修を必要に応じて企画、実施する。	・ICT支援員の方に協力いただきながら、定期的に短時間ずつ、実践的で有効なICT関連の研修を実施できた。多くの教員がスキルアップできた。 ・専門性の高い教員への研修の負担が大きい。	98 （68　30）	2 （2　0）	100 （58　42）	0	B	・ほぼ100%の高評価を得られた。職員の専門性の向上に関する評価は、AとBの割合がほぼ半数であったことから、ICTの活用については、さらに継続した研修の実施が必要と考える。	・研修内容を精選しながら時代に即した多種多様な研修の実施を計画的に実施していく。また、外部講師等の活用を積極的に進めていく。
		学習指導	・ICT機器を含む教材教具及びその活用法の工夫と情報共有を行い、児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりができる。	・教材及びその活用法を積極的に紹介し、情報共有のための格納場所のデータの充実と整理を行う。 ・一人一人の興味関心を生かした教材教具を持ち寄り、校内教材教具展を開催する。（興味関心をどのように生かして制作、活用しているかがわかるような個票の工夫） ・児童生徒総会や児童生徒会役員選挙に関する授業をICTを活用して分かりやすく工夫する。 ・主体的にICT活用ができるよう、情報モラル教育の充実に取り組む。（全体計画の作成や段階に応じた教材の活用等） ・ICTの活用に関する情報共有の場をチームズ内に設ける。 ・iPadを用いて児童生徒自らが学校や自分の様子を撮影し、居住する地域の学校との交流活動における学校紹介等に活用する。	・学部会において、定期的に教材を紹介し合うことができた。また、自立活動係など、係が管理している教材教具の一覧や楽器一覧などをデータ化して情報共有を図ることができた。 ・児童生徒の興味関心をどのように生かしたかをテーマにした教材教具展を開催し、研修を深めることができた。 ・児童生徒会総会でパワーポイントを活用し、注目度を高めて理解に結びつけることができた。 ・情報モラルに関する保護者アンケートを実施し、情報モラルの全体計画を作成することができた。 ・タブレット内にチームズを設け、情報共有に取り組むことができた。 ・居住する地域の学校との交流活動において、iPadを活用し、自己紹介などを行うことができた。 ・データの格納場所である教材用データ集の周知が十分ではなかった。 ・教材や実践例の紹介について、校内に向けて係からの呼び掛けが十分でなく、情報発信の積極性が不足していた。			97 （58　39）	3 （3　0）	B	・どちらも95%以上の高評価を得られた。ICT機器を含む教材教具を活用した学習活動の展開についての理解や意識が高まってきたと考える。活用の方法やデータ管理については、今後も情報共有の仕方を検討していく必要がある。	・他の分掌部とも連携を図りながら情報共有をし、活用についての実践を積み重ねながら校内での取組を継続していく。また、教材活用方法や実践例についての情報発信に積極的に取り組んでいく。
		教務	・ICTを含む教材教具についてのニーズを探り、授業の改善に生かせるよう環境を整備する。	・各分掌部や各学部と協力して情報収集をし、必要な情報を発信していく。 ・教材教具の工夫、授業改善のための環境整備を実施する。	・授業の改善に生かせるようICT機器の活用について情報を収集・共有することで指導力向上につながった。機器の管理にはまだ改善の余地があるため、速やかに整備してから行う。			100 （58　42）	0	B	・ほぼ100%の高評価を得られた。学習に必要な教材を含む物品の管理や情報収集等が適正に行われたことが評価されたと考える。	・他の分掌部とも連携を図りながら、ICT機器の活用について情報収集と周知を積極的に行っていく。

地域での学習活動の充実	・地域の人材、学校、団体、自然、施設、イベント等を生かした学習活動を工夫する	渉外	・地域の施設の活用を進めることができる。	・地域活用シートの充実を図り、情報を共有する。ブロックだよりや学部だよりで、地域での活動の様子を保護者に発信するよう依頼する。	・ブロックだよりや学部だより等をとおして、保護者には地域での活動の様子を発信することができた。校内においては、「地域活用シート」について情報提供が不十分であった。	100 （86　14）	0	94 （49　45）	6 （6　0）	B	・どちらも90％以上の高評価が得られた。各種「便り」等で地域での活動の様子を発信することが、地域を生かした学習活動の理解へとつながり、高評価となったと考えられる。 ・「地域活用シート」については、活用方法や情報共有の周知についてさらに検討していく必要があると考える。	・地域での活動の様子について、各種「便り」等で伝えてもらうよう、学部や分掌部に依頼していく。「地域活用シート」の更なる活用の仕方を検討し、学習指導部と連携し、情報提供・情報共有できるようにしていく。
	・行事や授業の様子など、家庭や地域への情報発信の充実を図る	相談支援	・行事や授業において、ボランティアを積極的に活用するとともに、実際の活動の様子について、保護者等に分かりやすく情報発信する。	・学校公開、ボランティアだより、ホームページ等により、ボランティアの具体的な活動内容、取組について発信する。	・行事等において、ボランティアを積極的に活用するとともに、学校公開やホームページなどにより、活動内容及び取組について発信した。普段の授業の補助等、ボランティアの活用場面について、検討の余地がある。	100 （65　35）	0	100 （88　12）	0	A	・それぞれ100％の高評価を得られた。ボランティアの積極的な活用と、活動の様子をその都度情報発信したことが良い評価につながったと考えられる。	・ボランティアの活用場面を広げていけるよう検討していくとともに、学校での取組について「ちいき新聞」等も活用し、さらに情報発信をしていく。
		進路	・児童生徒が行事や授業等に参加する様子を記録し、分かりやすく保護者に伝える。	・児童生徒が行事や授業等に参加する様子を懇談や保護者会、便り、ホームページ等で発信する。	・保護者会、便り、ホームページ等を通して、児童生徒が進路に関する行事や授業に参加し、学んだことを伝えることができた。			100 （88　12）	0	B	・それぞれ100％の高評価を得られた。行事や学習内容について、保護者会やホームページ等で具体的に伝えられたことが良い評価につながったと考えられる。	・行事や学習活動、進路に関すること等について、保護者会や各種「便り」、ホームページ等で配信し、学校での取組を分かりやすく伝えていく。
	・地域の人に挨拶する態度の育成について、家庭と連携して定着を図る	小学部	・一人一人の児童の実態に応じた方法で、日常生活に必要な挨拶ができる。	・朝の会、帰りの会、授業の始まりと終わりなどの場面をとらえ、教師が手本を示し、繰り返し指導・支援する。 ・挨拶の仕方を視覚的に分かりやすく提示したり、教室の掲示物を工夫したりし、意識向上を図る。 ・保護者会やブロックだより等を通して、保護者に取組を情報発信する。	・その都度、教師が手本を示すなどして、日常生活に必要な挨拶の指導・支援を行うことで、定着を図ることができた。 ・実態に応じた挨拶の方法を身に付けられるようにしていく。	93 （51　42）	7 （7　0）	100 （76　24）	0	B	・どちらも90％以上の高評価が得られた。日常生活に必要な挨拶の指導を継続して行った成果が良い評価につながったと考えられる。実態に応じた指導方法については、工夫をしていく必要があると考える。	・小学部から中学部へと一貫した指導の継続と、校内や家庭、地域で挨拶を実践できるよう、学校での取組を積極的に発信していく。
		中学部	・一人一人の生徒の実態に応じた方法で、場に応じた挨拶ができる。	・適切な挨拶の仕方を身に付けられるように、場に応じて教師が手本を示し、具体的に指導・支援する。 ・視覚的に分かりやすい掲示物を工夫し、挨拶の意識向上を図る。 ・保護者会や学部だより等を通して、保護者に取組を情報発信する。	・その都度、教師が手本を示すなどして、場に応じた指導・支援を行ったことで、自主的に挨拶をする生徒が増えた。その一方で定着が難しい生徒への取組を学部全体で検討していく必要がある。							
いじめ防止対策		児童生徒指導	・学校と家庭、関係機関間の密接な連携のもと、いじめの防止や早期発見、対応に取り組む。	・生活アンケートを実施し、児童生徒の実態を把握する。 ・連絡帳の確認や保護者との懇談等を行い、早期対応に努める。	・児童生徒の普段の様子の観察や連絡帳、また生活アンケート等により、児童生徒の実際の声や本人の思いを汲み取り、いじめの予兆に気づいて早期に対応することができた。 ・すべての件の解消には至っていない。保護者への啓発が不十分であった。	93 （67　26）	7 （7　0）	100 （88　12）	0	B	・どちらも90％以上の高評価で、生活アンケート等の取組や普段の指導の実際が評価されたと考える。保護者への具体的な学校での様子の伝達については、さらに工夫をしていく必要があると考える。	・今年度同様に日頃より児童生徒の様子の把握に努め、いじめにつながる事案を早い段階で発見し、未然防止・早期対応に務めるとともに、各種「便り」等で、保護者への啓発を図っていく。